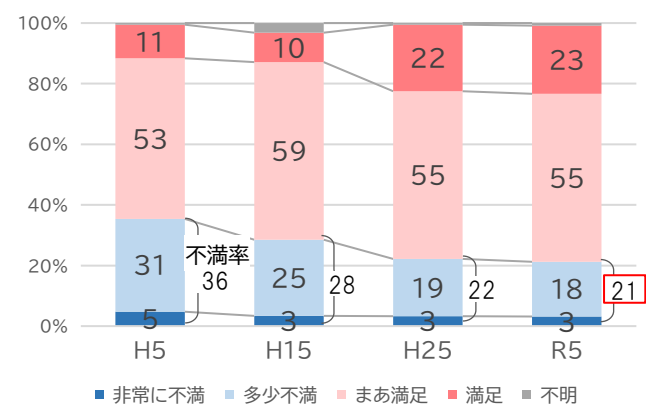


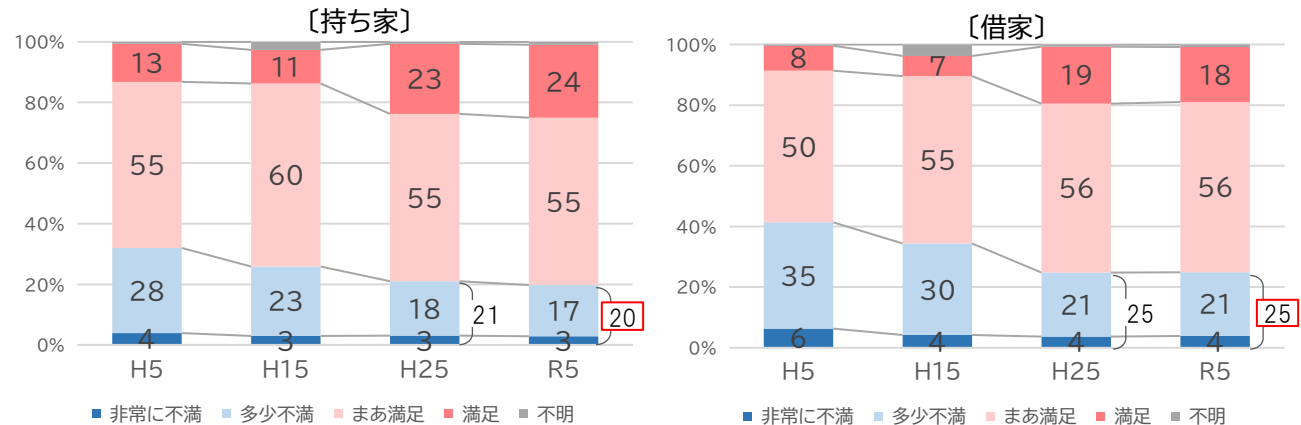
- ①住宅・居住環境に関する総合評価は、全体でも、持ち家・借家別で見ても、10年前と比べて概ね横ばいで推移。
- ②住宅の不満率は引き続き低下した一方、居住環境の不満率は10年前と比べて横ばい。また、親と子供から成る世帯(長子17歳以下)の不満率は、堅調に低下傾向にある一方、単独世帯、高齢者世帯の不満率は、10年前と比べて横ばい又は微増。
- ③持ち家と借家の別に不満率を見ると、単独世帯(65歳以上)、親と子供から成る世帯(長子17歳以下)で持ち家と借家の不満率の差が大きい。

(1)住宅・居住環境の総合的な評価

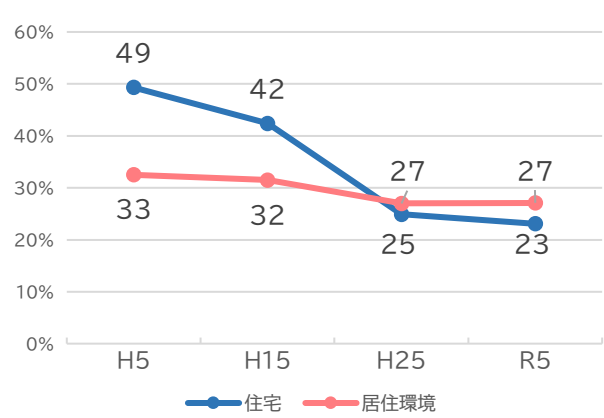
〈住宅・居住環境に関する総合評価(全体)の推移〉



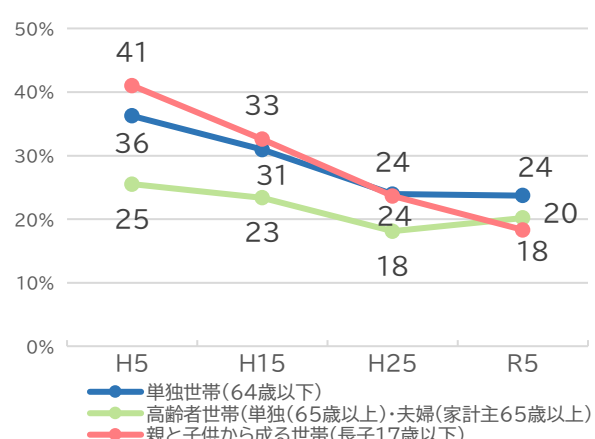
〈持ち家・借家別 住宅・居住環境に関する総合評価の推移〉



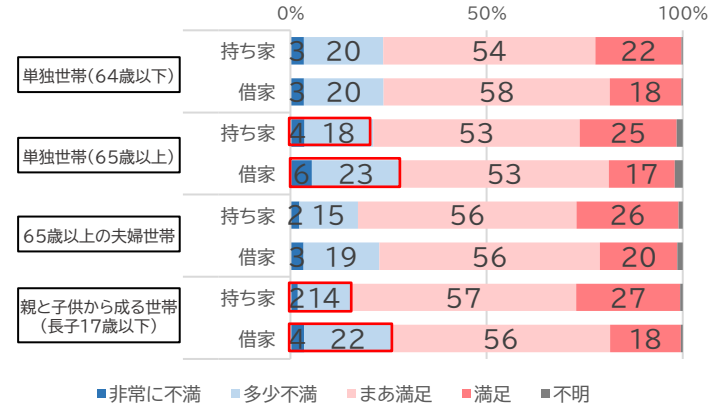
〈住宅・居住環境別 不満率の推移〉



〈家族類型別 不満率の推移〉

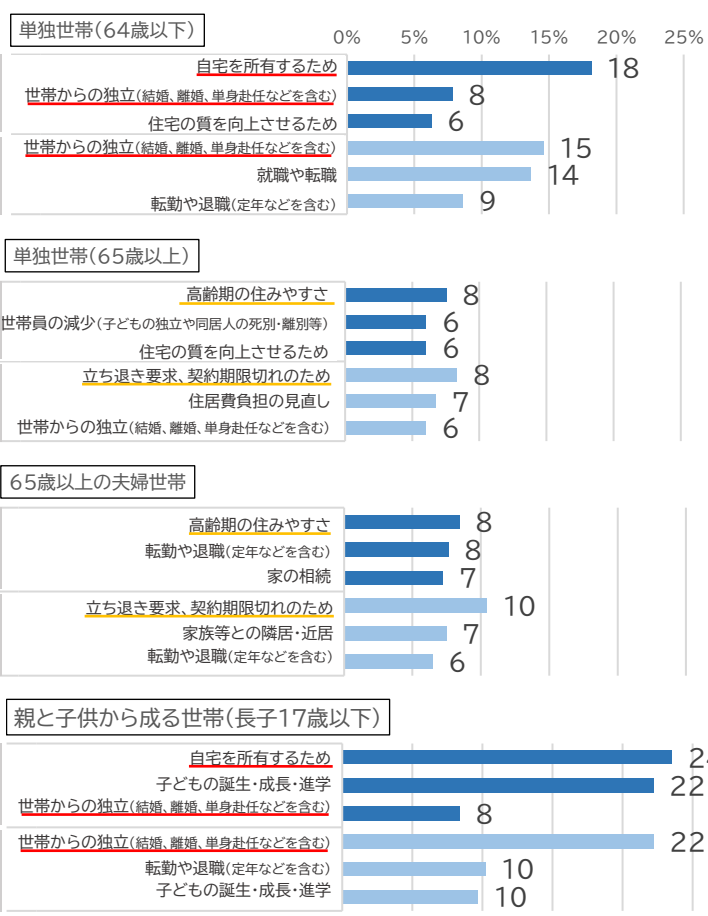


〈家族類型別 持ち家・借家別 総合評価〉

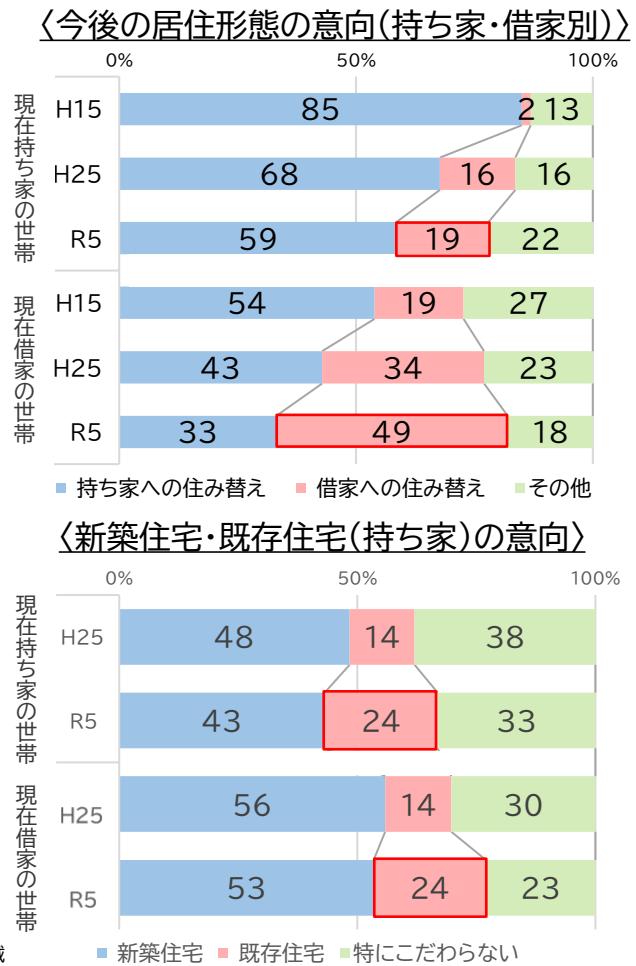


- ①過去5年間(※)における世帯の住み替え等の理由は、単独世帯(64歳以下)、親と子供から成る世帯(長子17歳以下)では「自宅を所有するため」「世帯からの独立」、65歳以上の世帯では「高齢期の住みやすさ」「立ち退き要求、契約期限切れのため」が多い。(※令和5年12月調査時点から)
- ②今後の居住形態の意向は、現在持ち家・借家の世帯ともに「借家への住み替え」「既存住宅への住み替え」の意向が増加。
- ③今後の住み替え意向がある世帯のうち、単独世帯(64歳以下)、親と子供から成る世帯(長子17歳以下)は「広さや間取り」「通勤・通学の利便」を重視する一方、65歳以上の世帯は「広さや間取り」「高齢者への配慮」「日常の買い物などの利便」を重視。

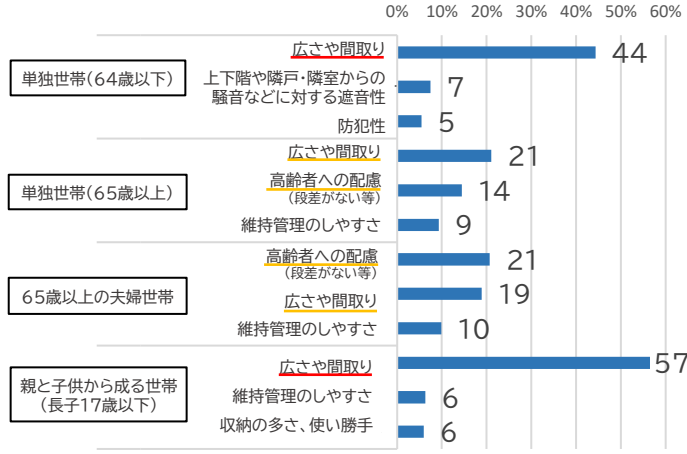
(2)最近の住み替え等の理由



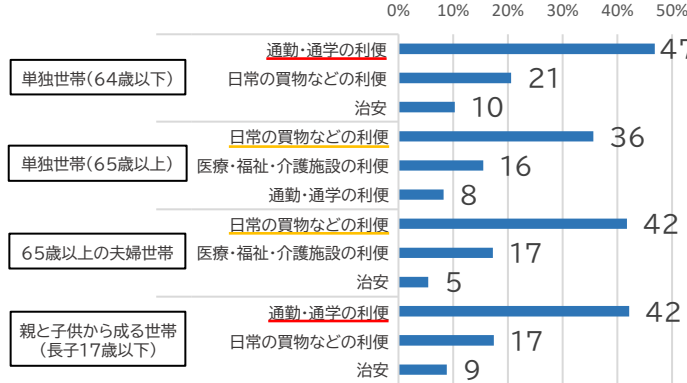
(3)今後の居住形態に関する意向



〈住宅の質で重視する点〉



〈居住環境で重視する点〉



※住み替え等の理由15項目のうち、家族類型別の持ち家・借家毎に上位3項目について掲載

※住宅の質及び居住環境における重視する点の各19項目のうち、家族類型別の上位3項目について掲載